

## 令和2年5月26日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。市長、よろしくをお願いいたします。

### 【市長】

5月19日の今川義元公の命日に開かれたお披露目、本当にありがとうございました。多くの取材をさせていただきまして復元をした彫刻を発信させていただくことになりました。コロナ禍で大変なときに一つ希望の光になるような素晴らしいニュースだったなというふうに変えたいと思っています。ご協力いただきありがとうございます。あのとき涙が取れた今川さんも登場したわけですが、その今川さんファンの方が早速マスクにそれをプリントして私にプレゼントをしてくれたので、このごろ各地の首長がそれぞれ工夫を凝らしたマスクをしていますよね。私どうかなと思ったんですけども、せっかくプレゼントをさせていただいたので、私も涙が取れた今川さんをプリントしたマスクを、今日、記者会見の場でご披露させていただくことにいたしました。ちょっと耳の所がきついんですけども、まあ、いいやという感じですね。しっかり歴史文化の拠点づくりという5大構想の一つをアピールしていきたいというふうに思っています。

そして、今日の話題でありますけれども、3次総「5大構想」の中の一つ「まちは劇場」の推進ということに関する、6月の臨時議会に提案する施策についてであります。このごろ各社の新聞を拝見すると、コロナ禍と文化芸術支援に関する論考が目立つようになってきました。経済対策という流れの中でどうしても後回しになりがちな文化芸術分野、実はこれをやはり公的に守っていくべきではないかという主張が目立ちます。5月21日付のある新聞のオピニオン欄、論説委員の方が書いた文ですけれども、社会的な意義再確認をと、少し読ませていただきますと、芸術エンターテインメント界が苦境に立たされていると。公演は軒並み中止や延期になっている、緊急事態宣言が解除されてもすぐに元通りの公演ができるわけではない。長期戦が予想されるが公的支援は心もとないと。文化芸術が社会に果たす役割を再認識するべきだという見出し文で始まっている記事ですが、業界は個人企業や多くのフリーランスが支えていると。公演の中止は生計を直撃する死活問題でもあると。支える人々の情熱が途切れ、次代の担い手も育たなければ、文化の壊滅につながりかねないということですね。私どもの問題意識も全くこれと一緒にあります。この論説委員の文章の最後はこんなふうにとままっているんですね。「日常が戻ったときに文化芸術のない砂漠のような乾いた世界でいいのか、今一度社会全体で考える必要がある」というふうに文章をまとめております。私たちはそういう問題意識から、5大構想に「まちは劇場」の推進ということ掲げているという観点から、今回このように「まちは劇場」パフォーミングアーツ発信事業奨励金というものを立案いたしました。パフォーマンスでエールをということですね。つまり、文化芸術活動に関わっているアーティストを経済的に支えることを通じて市民の皆さんにエールを送っていくと。文化芸術の力で心に潤いを持ってもらう、ゆとりをもってもらうという趣旨であります。

どうしてもコロナ感染の恐怖というのは理性を失わせてしまいがちであります。そうすると、差別、偏見ということにもなりかねないですね。そうではなくて心にゆとりを取り戻してもらい、そういう点でやっぱり文化芸術の持つ力、これはスポーツも含めてだと思いますけど、私は大きいというふうに思っています。今こそ市民の皆さんの笑顔とまちの元気を取り戻すために、芸術文化の力、アーティストの力に期待をしたいと思います。

この「まちは劇場」パフォーミングアーツ発信事業では、市内在住のアーティストの皆さんからパフォーミングアーツの動画作品を募集します。募集する作品は、静岡市民に元気ややすらぎを届ける作品とか、静岡市の素晴らしさ、例えば、食であるとか、歴史であるとか、特産品であるとかを伝える作品、さらに、市民にエールを届ける作品とともに静岡市の魅力を伝える作品も求めています。ですから、今日この記者会見で私はこれを全国に、静岡はアーティストを支えることによって文化芸術の力で市民にエールを送っていくよという事業を始めるということ、全国に私は静岡市の5大構想の一つとして発信していきたいという気持ちでありますので、皆さんの、ぜひ、ご協力ご理解をお願いしたいというふうに思います。

6月1日より書類での申し込み受付を始めます。どのような動画作品が出来上がってくるのか楽しみにしたいと思っておりますが、ここでその予告編、前もってこんなことをやるよと言ったら、それに応えてくれたアーティストの方々が動画を作ってくれました。メッセージが届いておりますので、これ初披露ですけれども記者の皆さんに、こちらの動画をご覧になっていただきます。

#### ※動画上映

##### 【市長】

どうもありがとうございました。私もこれを初めて見たときには何かちょっとほろっとしました。頑張らなきゃいけないなという気持ちになりました。これをご覧になった多くの市民の皆さんが、当たり前だった日常の大切さ、あるいは演劇や音楽や大道芸や、いわゆる文化芸術の素晴らしさを感じていたり、そして、よし、彼らも頑張っている、自分も頑張ろう、元気が湧いてきた、コロナなんかには負けないぞという前向きな気持ちになってもらえれば大変うれしいなというふうに思っています。私からは以上です。

##### 【司会】

すいません、ここで一つ訂正をさせていただきます。冒頭、市長のほうから6月補正というようなことがありましたけれども、この事業ですけれども、5月補正で5月の22日に議決をいただいている案件です。

##### 【市長】

ああ、ごめん、ごめん、そうだ。

【司会】

はい、申し訳ございません。それでは、ただ今の発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

【市長】

一つぐらい質問を受けたいな。記者の皆さんの文化力を。

【司会】

それでは第一テレビさん、お願いします。

【市長】

ありがとう。

【第一テレビ】

この春から市政の記者クラブに入りました。すてきなお話ありがとうございます。  
この取り組みっていうのは、全国的には、あまりまだない取り組みなんですか。

【市長】

そうですね。国も文化庁を中心になんとか支援しなきゃいけないという問題意識は持っているし、自治体もそういう意識はみんな持っていると思います。

しかし、このような形でこのコロナ禍中で、ここに特化してこのようにアーティスト、文化の力を活用して市民にエールを送っていきこうというのは、私たち、これが市の重要施策である「まちは劇場」ということですので、財政のほうも観光交流文化局との議論の中でこれを予算として上程をして、議会も認めてくれたということなので、とても早い一つの取り組みだろうと思っています。

そういう意味でも、全国初とは言えませんが、そして、少し推進監にそこの辺りを補足してもらおうと思いますけれども、比較的ユニークな取り組みになるのではないかなというふうに、私自身は自負しております。まちは劇場推進監をお願いします。

【まちは劇場推進監】

ありがとうございます。これネットでも話題の東京とか京都とかありますけども、先行しているものってわりとアーティストを支援しようっていう形でやっていますけども、静岡市、ちょっとそこからまた一步視点を進めてですね、先ほど市長のお話にもありましたけど、アーティストの支援と同時に市民にエールを送るという切り口でやっていますから、そういう意味でひとつ新しい取り組みかなというふうに思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】

よろしいですか。

【第一テレビ】

すいません、追加なんですけど、これはいつからオープンになるんですか。動画。

【市長】

もうオープンにして、1階の方でもこれから動画再生していくんですね。

少し実務的に答えてください。

【まちは劇場推進監】

皆さまのお手元にこの青い紙が行っておりますので、これを見ていただくとあれですけど、今から準備して6月1日から受付を始めて、随時、早いものから公開していきたいなと思っています。Web上に上げていきたいと思っています。

【市長】

これは先日の記者会見で申し上げた通り、静岡市のコロナに立ち向かっていくキャッチフレーズは二つのライフを守ろうと。生命を守ろう、くらしを取り戻そうと。これ、缶バッジも、今日、作ってきましてのでこれもつけさせてもらっていますけれども、ここなんです。

難しく言うと感染拡大防止と社会経済活動の維持の両立ということになるんでしょうけど、非常に分かりづらいですね。なので、生命とくらしを共に守っていこう、二つのライフを守っていこう、その中でくらしを取り戻していこうという一環の事業だという位置付けだにご理解いただければと思います。

【第一テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。毎日新聞さん、どうぞ。

【毎日新聞】

毎日新聞です。すいません、何点かお伺いします。パフォーマンスでエールをの中で、プロフェッショナルとして活動されている方というのが対象者に当たると書いてあるんですけど、これは演劇とかが生業の方っていうふうな認識なんでしょうか。

【市長】

これも実務的に担当から答えていただきます。

**【まちは劇場推進監】**

そうです。応募要領の中に詳しく書いていますけれども、基本的にはそういう考え方です。ただし、伝統芸能をやってらっしゃる方はまた別。プロフェッショナルの方いらっしゃいませんので、別途という形です。

**【市長】**

この無形民俗文化財伝承団体、市内に9つあるというふうに報告を受けております。そういう方々にもこんな形の枠組みを提供できればというふうに設定をしました。

**【毎日新聞】**

具体的には、オクシズの神楽とかそういったことをイメージされているんですかね。

**【市長】**

そうです。梅ヶ島の新田の神楽であるとか、有東木の盆踊りであるとか、由比のお太鼓とかがそれに当たりますね。

**【毎日新聞】**

集めた動画は、市のホームページで公開するのでしょうか。

**【まちは劇場推進監】**

そうです。市のどうかですね、ここにちょうど右に切っております、ON STAGE SHIZUOKA というロゴを切っておりますけど、このホームページがあるものですから、この上で公開というふうになります。ぜひ、ご覧ください。

**【毎日新聞】**

承知しました。ありがとうございます。

**【司会】**

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のほうに移らせていただきます。静岡第一テレビさん、よろしくお願いいたします。

**【静岡第一テレビ】**

静岡第一テレビです。新型コロナウイルスの収束というかちょっと落ち着きが見え始めてきましたけれども、静岡市だと休業要請による協力金とか、エール静岡応援金などさまざまな支援策が出されています。今後、財政面を考えたときに、前回市長の会見では制限(注:聖域)を設けないということ

でおっしゃっていましたが、具体的な規模の見直し、事業の検討を想定されているのか、お答えください。

**【司会】**

まず、最優先はコロナ対策であります。これは前回の記者会見でも申し上げたと思いますけども、私たちにとって大災害であります。第二次世界大戦以来の世界的な危機だとおっしゃる識者もおります。つまり、いわばウイルスとの戦争ですよ。ですから、とにかく今戦争に立ち向かっていかなきゃいけないということでは、やはりここで物心両面の経営資源を最大限投入しようということで、今、2つのライフを守ろうという施策を中心に議会と議論して議案を認めていただいたという真っ最中であります。

しかし、いずれ戦争は終わります。戦後の世界のことを考えていかなければいけません。私、よく二つの目線、虫の眼と鳥の眼っていう言い方をしますけれども、ミクロな目線で目の前にあることに対処すると同時に、マクロの鳥のような大所高所の目線でその次の時代、中長期的なことも構想していかなければいけないということ、これ、二つの目線が必要だと思います。

ですから、最優先すべき喫緊の今の市民の苦しい生活を、どう生命とくらしを支えていくかということでもありますけれども、その後のこともやはり、新しい生活様式が定着をするポストコロナの時代に、どう静岡市の成長戦略を、新しく時代と合致したような形で描いていけるのかということも構想しなければいけません。そういう中で切り詰めなければいけないものは切り詰めなければいけないし、あるいは既存の5大構想は聖域なく見直しをしなければいけない。今、企画局と財政局が私の問題提起の中で議論を進めている真最中である、まさにこれから取りまとめていくという段階だというふうにご理解いただきたいと思います。

**【静岡第一テレビ】**

じゃあ、まだ具体的には、どこどこを見直そうかっていうのは、まだ決まっていないんですね。

**【市長】**

そうですね。ブレインストーミングはもちろんやっています。また、議会の皆さんと、やはりこれはコロナに端を発し一つの節目になるわけですから、議会の皆さんにも情報提供しながら議論を深めていく必要もあると思いますので、そういう組み立てをこれから丁寧にやっていきたいなと思っています。

**【静岡第一テレビ】**

次の質問なんですけれども、コロナで幅広い業種が影響を受けていますけれども、その一つで長期にわたる影響が懸念されるのが観光関連だと思います。観光関連の事業者を応援したくても、新しい生活様式ですと旅行を控えめに、とあるのではなかなか難しいところがあるかなと思うんですけれども、静岡市としては、今、市内での観光だったらいいよとするのか、それとも県内からなのか、

県外から来ること、首都圏はちょっと、だけど山梨とか岐阜とかだったらいいかなとか、そういったところをどうお考えなのかお伺いしたいなと思います。

**【市長】**

これは、大局的には国の方針を見定めつつ我々の方針を決めていくということになるかと思えます。国は昨日付で3週間ごとにフェーズを変えていくというような方針を打ち出しました。今月中は県境をまたぐ移動は控えてほしいということでもあります。それが本当に今月中なのか、もう少し長引くのか、感染の状況を注意しながらという判断になるかと思いますが、幸い静岡市では5月、感染者が発生しておりません。ですので、ここの社会経済活動を開いていく上で、近隣市町との交流人口の拡大ということを促していくということから始めていこうと思えます。

さいわい5市2町の連携中枢都市圏がありますので、例えば、静岡市民が牧之原とか島田で何か行事があるんだったらそこへ行く。そこに何か特典を与えつつ逆に静岡に来てもらうとかいう、ここの交流をしていくということで、徐々に徐々に人の移動をこの県内のとりわけ中部地域でやっていこうということを、各7つの自治体ですけれども、6人の首長にも、今、問題提起をして実務も始まっているところであります。

イベントニュースの『GO TO』ってご覧になったことがありますか。5足す2で7つの自治体がそれぞれの所に行き合おう、GO TO、どこかっていう結構しゃれたネーミングのタブロイド紙なんですけれども、またぜひご覧になっていただきたいと思えますけれども、そんなことを積み重ねてきてね、意外と我々、この中部5市にどんな観光スポットがあるかとか、催しがあるかとか知らないんですよ。ですので、そんなことを紹介しながら、だんだん、だんだん経済の活性化に向けての人の動きを下支えしていこうという考え方です。

**【静岡第一テレビ】**

ありがとうございます。その5市2町と連携しながら観光推進していきたいというのは、もうスタートした？

**【市長】**

これからですね。

**【静岡第一テレビ】**

これから。

**【市長】**

これこそ6月の議会に提案をしようと、観光交流文化局中心に、いろいろ議論を進めているところです。今日は来てないのかな、観光交流文化局は。少し補足お願いします。

**【観光交流文化局次長】**

観光交流文化局次長の望月です。今の5市2町という枠組みでというようなところで、本当に、今、検討しております。国の方でも「Go To キャンペーン」ということで計画があり、昨日も7月下旬ぐらいからというようなお話が出ている中で、それぞれ国、県も計画を考えているようですので、そういった動向を見ながら、我々も検討していき、今、検討している最中ということです。

**【静岡第一テレビ】**

ありがとうございます。幹事社からは以上です。

**【司会】**

ありがとうございました。それではですね、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。SBSさん、どうぞ。

**【SBS】**

SBSです。すいません、だいぶ別件になってしまうかもしれませんが、一部のメディアで清水区の桜ヶ丘病院について挙がっていました。JCHO側から市に対し、規模縮小案などが出ているというニュースも出ているんですけども、その辺りの実態について教えていただけますでしょうか。

**【市長】**

院長が4月に代わりましたのでね、その方針のもと、私たちの方針と、今、すり合わせしているところでもあります。

**【SBS】**

具体的に市民の方、患者の方も不安な部分もあるとは思いますが、やはり医療体制として整っているのか、また、分裂、統合になると不安な部分、まだ決まっていない部分も多々あると思いますけども、その辺りはいかがでしょうか。

**【市長】**

まず市の方針としては、先ほどの通り、3次総を聖域なく見直しをするということですのでね、庁舎のこと、病院のこと、清水の海洋文化の都市づくりのことについて見直し作業を進めているところでもあります。

一方で、清水桜ヶ丘病院のほうは、今、記者のご指摘の通り一刻も早く移転して、安心・安全な建物のもとで医療を施したいという気持ちを持っておりますので、そこと今ウインーウインの関係になるような、なるべく早い移転を下支えするような、そんな考え方でJCHOさんの方と鋭意、話を進めているところであります。



【SBS】

最後に一つだけすいません。実際に向こうからそういった案が来たということで認識はよろしいんでしょうか。

【市長】

そういったことっていうのは？

【SBS】

ごめんなさい、マイクが。移転後は救急医療や外来対応のみという記事なども出ていましたけれども、そういった案は実際、市の方に要望などがあったのかだけ教えてください。

【市長】

ありません。

【SBS】

ないですか。

【市長】

ブレインストーミングの中ではいろんな案として承っておりますけども、正式に要望があったということではありません。まだ議論、これも私たちも見直しということを出したのは新年度になってからでありますし、先方も院長が4月に着任してまだ日が浅いと。ただ、既定の方針通りではなくて、いろんなブレインストーミングをする中で、そういう案も一般論としてね、厚労省の方は地域医療計画ということの中で、こうあるべきだという指針も示しておりますのでね、この前も、私、申し上げました通り、コロナで立ち止まるというのは大変残念な思いもするけれども、一方、立ち止まることでいろいろなオプションが広がっていくという、ピンチはチャンスだという考え方もありますのでね、その辺り慎重に先方と私どものビジョンというものの共有化を図っていきたいというふうに思っています。その点JCHOさんの方もね、こういうコロナの状況下で背景が変わったという共通認識は持っておりますのでね、そういうことでの議論を進めていきたいというふうに思っています。

【SBS】

ありがとうございます。

【市長】

何か補足があればいいかな？はい。

【司会】

その他いかがでしょうか。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。関連して伺いますが、今、コロナのことを言及されましたけれども、病院の移転とコロナがどう関わってくるのか、いろんな事業見直しというのはそれは検討されればいいのかと思いますけれども、こと医療に関して、ついてはやはり感染症ということも想定するとベッドは維持しなきゃいけないんじゃないか、ですとか、厚労省の再編議論自体もいったん中断するべきじゃないか、という意見も広く出ている中でですね、今、病院、一部除くと病床が満床には到底ならないという中でダウンサイジングはやむを得ないというような市長も認識持たれていると思いますけれども、コロナを理由に桜ヶ丘病院移転後縮小してもいいという話になるのか、そのつながりをどう理解すればよいのか市長のお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

はい。全くそれは飛躍です。主語がどこか、主語は市です。市が3次総全体をコロナの影響で見直しをかけているということをご理解いただけますか。その中に清水庁舎の移転ということも入ってくるから、これも見直しの対象になっているということです。

しかし、それによってJCHOさんが正式に庁舎の跡地を病院の移転地にしたいという要望を受けて、そこを、今、想定した移転の準備を進めていますから、そこに迷惑がかかってはいけないわけですよ。ですから、そこら辺のところを勘案してから議論を進めていくというのが、先ほど私が申し上げた趣旨です。整理できましたでしょうか。

【NHK】

移転に迷惑をかけてはいけないから、清水庁舎の移転を凍結するようなことをしてはならないという意味ですか。

【市長】

いやいや、そのところを、今、私どもの立場と先方の立場と議論を鋭意進めているという理解であります。これは議会とも議論をしていかなければいけないというのは先ほど申し上げた通りです。早急に結論が出る話ではないので、それは注意していただきたいと思います。

【NHK】

伺い方を変えますが、コロナを理由に桜ヶ丘病院が大幅に縮小されても、それはコロナだから仕方がないという話になるのでしょうか。

【市長】

全然そうじゃないです。それは桜ヶ丘病院の当局の方に聞いていただきたいと思いますが、そんな認識はないと私は思いますけどね。

【NHK】

あと、兼ねてから私記者会見の場で伺いましたけど、医師不足対策についてですね、静岡市、市長もいろいろ大学病院などお願いされたりとか、努力はされているんだと思いますけれども、市として具体的な寄附講座などの用意が示していない中で、JCHO側に納得できる協議ができていないという状況はあるという認識をお持ちかどうか、いかがでしょうか。

【市長】

それも、質問されたよい機会ですので申し上げますとね、一部報道が過熱しているというふうに私は理解しております。尾身理事長からも新しい院長からも医師確保について協力してほしいと、その一つの手段としての寄附講座を検討してほしいというふうに要請されましたので、それについて、私は検討をいたしますというふうに伝えてあります。一蹴をしたということは決してありません。たしかに医師の確保、一義的には当事者である病院のミッションでありますけれども、このような形で撤収されないためには、とにかく桜ヶ丘病院の環境整備に努めてきたわけですので、そういう要請に対してはね、私として検討していきたいというふうに伝えてあります。

【NHK】

それを公の場でおっしゃっていただくのは初めてだと思いますので、その寄附講座の検討というのはいつごろ、どこに対して行うというお考えなのか。慈恵医大に対してなのか、来年度からお考えなのか、いかがでしょうか。

【市長】

それはJCHO側、桜ヶ丘病院側からの要請に基づいて、私たちは門外漢でありますのでね、どこに寄附講座を提供することが、一番効率的に、一番確実に医師を確保できるのかということは、先方のご意見を聞いてからの対応になろうかと思えます。

【NHK】

時期については？

【市長】

まだまだこれからです。桜ヶ丘病院さんの方も独自に医師確保について、鋭意、取り組みをしてくれているというふうに私は報告を受けています。さまざまな医大に訪問しているというふうにも伺っています。

【NHK】

お話の角度をひっくり返すようですけども、医師不足ということ言えば清水病院も同じことであるのに、市立病院のほうも課題を抱えている中で、独立行政法人が運営する病院のために市が特別な予算措置を行うことについて整合性をどうお考えでしょうか。

【市長】

清水区全体の医療体制を確保すればよいわけでありますので、市立病院であろうと桜ヶ丘も公的な病院でありますので、私たちにとっては必要な存在だというふうに受け止めています。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

その他いかがでしょうか。よろしいですか。どうぞ。

【テレビ静岡】

テレビ静岡ですけども、先ほどブレインストーミングという話ありましたけれども、具体的にはどういうふうな形をされているのかというところを教えてもらってもよろしいでしょうか。

【市長】

どうだろう、保健福祉長寿局長。いろんな案がブレインストーミングしているということだよ。国の方向を見定めて。まだ、これに決めるという段階ではないというのは先ほど申し上げた通りです。

【テレビ静岡】

一部の報道ですと、それが有力な案というような形の見方もできるような紹介のされ方というか、あると思うんですけども、現状としては全てを本当に等分にアイデアを土俵に乗せているというような理解でよろしいんですかね。

【市長】

記者の皆さんっていうのは、できるだけ事実に迫ると。そして、できるだけ早く報道するということが大事なんだろうというふうに思います。でも、早過ぎる情報は逆に事実ではないことを時に報道するというのもあるかと思えます。私ども行政は、やはり粛々と時間をかけて積み重ねなければいけないということもあります。ですので、見直しによって立ち止まることによってオプションは広がったなと、ピンチはチャンスに変えようと。その中で先ほどブレインストーミングという言葉を使ったのが、いろんなオプションをひとつ柵卸してみようじゃないか、というような段階だというご理解をしてい

ただきたいと思います。

【テレビ静岡】

ありがとうございました。

【司会】

その他よろしいでしょうか。では、NHKさんどうぞ。

【NHK】

NHKです。公務員の定年延長について伺いたいのですけれどもいいですか。

【司会】

公務員の？

【NHK】

定年延長について伺います。検察庁法と国家公務員法の改正案が今回、流局になった中で、地方公務員法の改正も見送られている形ですけれども、こちらにいらっしゃる局長さん方の身分にも関わるかもしれませんが、再来年度以降の定年延長が宙に浮いたことによって、今後の静岡市の人事戦略ですとか再任用のあり方、あるいは新規職員の採用計画について何か気をもんでいらっしゃる部分があるか、市長の考えをお聞かせください。

【市長】

まず、高齢者雇用促進法は、もう施行されております。人生100年時代でね、65歳ということを見据えた働き方改革ということが必要だというふうに私は思っております。そこで市の人事政策も進めているわけでありまして。この点は、エキスパートである副市長あるいは総務局長から実務的に補足をしていただきたいというふうに思いますけれども、国の動きを見定めながら私たちは粛々とそういう職場環境を作っていくというふうに思っています。お願いします。

【総務局長】

総務局長の吉井と申します。定年の延長の話ですけれども、今回、法案が先送りになっている影響があるなしに関わらずですね、公務員の定年延長をすることによって65歳まで最終的に延ばしていくということになりますと、新規採用者を採りつつ、そうした高齢者の雇用もキープしていくということになると、人件費の膨らみとか職員の全体のバランスをどう取っていくかというのは根本的な問題としてございます。

ここについては、今回の法案に関わらず静岡だけじゃなくて全国的な、国家公務員も含めて職員の全体のバランスとか新陳代謝をどう図っていくのかというのは課題としてあるものですから、引き

続き法案の延長とは関係なくその部分については、どういう雇用を維持していくのかというのは考えていかなければならないというふうに認識しております。以上です。

【NHK】

わかりました。ありがとうございます。

あと、市長にこの機会にお尋ねしておきたいんですけども、今回の一連の検事長の定年延長をめぐる議論の中でですね、今回賭け麻雀ということが明らかになったことで権力とメディアの関係性についてもいろいろ問われるようになりましたけれども、記者との姿勢について、いろいろ、この場でも市長と議論をさせていただいていますが、一連の国会での議論をご覧になって、メディアとの関係をどういうふうに考えていらっしゃるか。特に緊張感ですとか、市役所にとって都合の良いこと、悪いことをいろいろ報道することについて、市長はどう思われているかお聞かせください。

【市長】

やっぱり緊張と協調、両方必要だろうと思います。やはりメディアは権力を監視するという大切なミッションがありますし、また、ともに静岡市を良くしたいというビジョンは共有できているというふうに思いますので、時に記者会見のときには緊張関係も必要だろうし、しかし、やはり静岡市を良くしたいという意味では報道の力をお借りして、我々の施策を促進するというのも大事だろうと思います。

【NHK】

この場であまりくどい議論はいたしませんけれども、以前、記者クラブの記者は市の職員が自転車通勤やバス通勤をしている中で駐車場を使える特権もあるじゃないかということをおっしゃったこともありましたけれども、そういった記者クラブへの便宜供与を理由に記者クラブの記者が市役所に親和的な報道をするべきだというお考えは、市長、本当にお持ちなんでしょうか。

【市長】

それは記者個人に一般論として申し上げたことであってね、当たり前だと思っはいけないということです。それは私の環境もそうですし、あなたの環境もそうですしね。そのことをわきまえて、やはり相手の立場を思いやるとか、そういうことが必要だということを一一般論として申し上げただけで、それ以上の意見はございません。

【NHK】

ごめんなさい、一般論として駐車場の提供などの便宜供与があるから市役所の立場に立った報道をするべきだということですか。

【市長】

私、29 のときに市議会議員に当選させていただいて、やはり地下2階の駐車場の装置をいただい

たんですね。そして、すごく便利に議員活動ができましたし、大変ありがたかったなというふうに思います。ただ、一方で私と同じ年の同級生は、地道にバスで、電車で、自転車で通勤しているわけです。自分ばかり議員という立場でね、こんなふうに車で通勤できるというのは申し訳ないなという気持ちでありました。これが当たり前だと思っちゃいけないなというふうに当時思いました。そのことを覚えていたがゆえにね、若い記者にも申し上げたということでもあります。

【NHK】

それを理由に報道規制をどうしろということなのか、いかがですか。

【市長】

そんなことは全く関係ありません。誤解をしないでいただきたい。

【司会】

よろしいでしょうか。以上です、市長の定例記者会見の方を終了させていただきます。  
次回の記者会見は、6月4日の午前11時からとなりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。